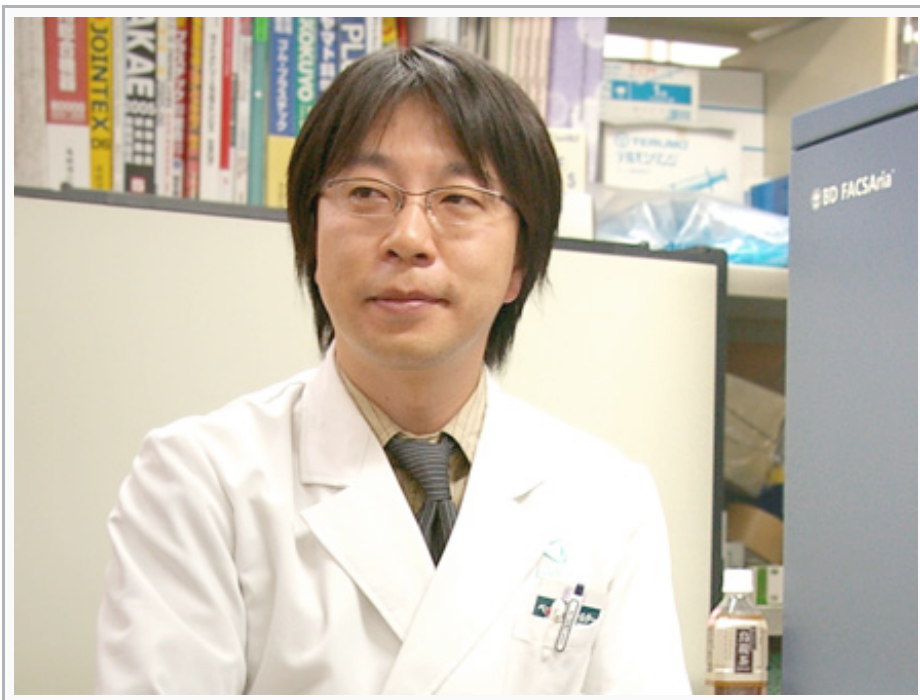


Keynote 3でより簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力

ハイパフォーマンスのMac Book Proとの組み合わせで作業効率もアップ

新しいトランジション、ベジェ曲線などのグラフィック機能、スライド作成支援機能などの追加で、さらに高い表現力のプレゼンテーションをより簡単に作成することが可能になったKeynote 3。学会発表などでKeynoteを活用され、

『Keynote 2プレゼンテーション入門（秀潤社）』の著者でもある杏林大学医学部共同研究施設フローサイトメトリー部門の高橋 良先生に、新しいKeynote 3の機能やプレゼンテーション用資料の作業効率の変化、MacBook Proとの組み合わせによる可能性などを伺いました。



受け手の記憶にどれくらい残るか。視覚に訴えることを重視

文字情報はシンプルに簡潔に視覚に訴える。必要な部分だけをハイライトで見せ、視線を集中させる。起承転結やここぞ、というキメの部分にトランジションを利用する。高橋先生のプレゼンテーションをひとことで表現するとしたら、まさに「記憶に残させるプレゼンテーション」と言えるでしょう。

こうした訴求力のあるプレゼンテーションを実現させたのがKeynote 2だと評価しておられた高橋先生ですが、バージョン3にアップし、さらに高い表現力でより簡単に魅せるプレゼンテーションが可能になったKeynote 3に対して、「バージョン2の時に“これが欲しい、これを使いたい”と思っていた機能がKeynote 3になって備わった。完全型に近い状態になった感じがします。」とコメントされています。

そもそも、高橋先生が考えるプレゼンテーションとはどのようなものなのでしょう。「全体的にシンプルに仕上げる。そして見せ場を作ること」と2つのポイントを挙げました。

「やはり学会も受け手、つまり聴衆の先生方にどれくらい印象を与えられるかが勝負です。どうしたらインパクトを与えられるプレゼンテーションができるか考えたとき、イメージとして脳にインプットされやすいグラフィカルな視覚情報によって訴えるのが最も効果的であるという結論に行き着きます。例えば、プレゼンテーションのメインとなる場面の直前にトランジションを使って、『ここは注目してほしいところ』だとアピールしたり、タイトルやコメント、図、グラフも整然と並べて洗練されたイメージを与えたりしています。」

ユーザーインタビュー

杏林大学医学部共同研究施設フローサイトメトリー部門 高橋 良先生

1. Keynote 3でより簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力
2. [高橋先生はMacBook Pro+Keynote 3をこう評価する](#)

ソリューション

プレゼンテーションの実施とデータの活用

1. [柔軟なグラフィックス機能の追加でさらに豊かになった表現力](#)
2. [プレゼンテーションの実施とデータの活用](#)

iWork'06



iWork '06はアップルデザインのテンプレートをベースに美しいドキュメント作成が可能なワードプロセッサ「Page 2」と高い表現力で高品質なプレゼンテーションが可能になった「Keynote 3」の2つのアプリケーションを含むパッケージ。MacBook Proには30日間お使いいただけるiWork '06 評価版が付属します。（「Keynote 3」の単体パッケージはありませんので、ご購入の際はiWork '06をお求めください。）

[今すぐ購入](#)

[Apple Storeでオンライン注文する。](#)

Keynote 2プレゼンテーション入門 —ビギナーからPowerPointユーザーまで (秀潤社)



Keynoteの基本的な使い方、PowerPointからの乗り換え、プレゼンテーションの効果的な見せ方、上級テクニックまでを詳細に解説した書籍。Keynote 3以前に書かれた書籍ながら、

Keynoteの基本を押さえた入門書として現在でも有用。全ページカラー、331ページ。

2005年10月刊

[今すぐ購入](#)

[Apple Storeでオンライン注文する。](#)

Keynote 3の主な新機能

Keynoteに切り替えてから『どんなソフトを使っているのか?』と聞かれるようになりました。

さらに発表する場の多くが医学会、医療従事者を想定した依頼講演であるため、当然、アカデミックであることも重要と指摘します。「例えば、単なる棒グラフがただ並んでいるスライドと、エラーバーがある見やすいデザインのグラフが的確な付加情報を伴って整然と並んでいるスライドとでは、どちらのほうに信憑性を持てるでしょう。やはり後者です。発表の場ですから、これまで積み上げてきた研究の成果に対しより信憑性を持たせたいわけで、そのためには見やすく、整然と並べられていて、必要な要素がすべて入った図やグラフが欠かせないのです。」

実際、高橋先生がプレゼンテーション用ソフトをPowerPointからKeynote 2に切り替えて、1年あまり。周囲からのさまざまな反響もあったと言います。「学会の発表後、『どんなソフトを使っているのか』と聞かれるようになりましたね。最近は発表の内容もさることながら、きれいな画面、スマートなプレゼンテーションなどに興味を持つ先生方が増えてきたのでしょう。」

画像のピックアップから加工までの一連の作業がスムーズに

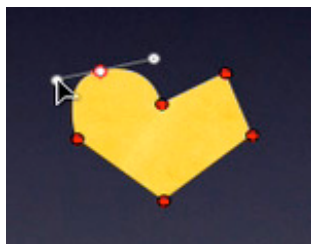
Keynote 3で高橋先生が高く評価されているのは、新しくサポートされたグラフィック機能。とくにiPhotoからの画像の取り込みからイメージ調整の連携、ベジェ曲線のサポート、そして任意の図形によるマスク機能の3つです。

Keynote 3にはiPhotoと同じイメージ調整機能が採用され、明度やコントラスト、色調整、シャープネスなどがKeynoteから行えます。「iPhotoと同等のイメージ調整がKeynoteの中で可能になったので、他のソフトがいらず、非常に使い易くなった」とコメント。「通常、私たちが持っている写真などの画像素材は、プレゼンテーション用として必ずしも状態がベストではない場合も多く、調整をかけたい。また原本となる素材はオリジナルとして、そのままの状態を残しておきたい。こうした理由からプレゼンテーションで画像を使う場合、何かしらの加工が必要になってくるわけですが、この画像を加工する作業がKeynote 3だけで行えるようになったので、作業効率も大幅に短縮できるようになりました。」



どの画像素材をピックアップして、どのように加工するとプレゼンに使えるか、そのための最良な選択を検討する。これは思った以上に時間を取られる作業だと言えます。「管理している素材のなかから必要なものだけをピックアップするのは、素材が増えれば増えるほど面倒になりますが、iPhotoで管理している素材であれば、Keynoteのメディアブラウザを通してドラッグ&ドロップでシームレスにKeynoteに取り込むことが可能なので、非常に使い勝手がいいですね。」
このように画像の選択から加工までの一連の作業がiPhotoとKeynoteだけでできるようになったことに対して、「この連携はすばらしい。これを見せると、きっと多くの人が感心すると思いますね。」と高橋先生。

高く評価する点として挙げられたベジェ曲線のサポート。ベジェ曲線はコンピュータで曲線を表現する方式のひとつで、グラフィックソフトのAdobe Illustratorなどで採用されています。これまでのKeynoteには任意の図形を作ったり、写真などの画像を任意の形にマスクングしたりする機能が備わっていなかったため、既存の図形のなかから選ぶか、アドビ社のIllustratorやPhotoshopなど他のグラフィックソフトを利用するか、のいずれかの方法しかありませんでしたが、Keynote 3ではベジェ曲線機能がサポートされたため自由な曲線を描けるようになり、思い通りの図形を作成し、さらにそれを画像のマスクングのために利用できるようになりました。



例えば、高橋先生のプレゼンテーションのイントロ部分でよく用いる手法に、まず

新しいトランジション

入り口、回転ドア、ブラインド、反射、シャッター、落下、スウォッシュ、カラーでフェード

グラフィック機能

プリセット図形（シェイプ）の追加（星形と多角形）

多角形および星形図形の頂点数をコントロール（任意の多角形描画が可能）

ベジェ曲線のサポート

図形変形

パスを滑らかにする（ベジェ化）

パスをシャープにする（多角形化）

任意の図形でマスクング

イメージ調整

オブジェクトのグループ操作

リサイズ、変形、回転

反射（映り込み）

グラフ機能

散布図のサポート

3Dグラフのサポート

テキストの段組み

新しいテーマ

縦横比16:9のワイドサイズ（最大1920x1080ピクセル）のテンプレート

スライド作成支援

ライトテーブル表示によるスライド入れ替え表の計算機能

共有

iDVD 6への書き出し

発表機能

コメント

ムービースクラブ（ムービー表示時のコントロール）

発表者ディスプレイのリハーサル機能

スライド進行インジケータ

Keynote トランジションギャラリー

Keynote 3で搭載された[新しいトランジション](#)をお確かめください。

リハーサル機能



従来、外部ディスプレイを接続しないと表示できなかった発表者ディスプレイをMac単体で表示できる機能です。

リハーサルビューでは、現在のスライドと次のスライドの2つが同時に表示されます。現在のスライドの下の時計に時刻が表示されます。次のスライドの下の時計には、スライドショーを始めてからの経過時間が表示され、発表のリハーサルを行うことができます。

ムービースクラブ機能

スライドにムービーを張り込んだ場合、プレゼンテーション中にムービー上にマウスカー

人体図を出し、そこからある部分にフォーカスを当て、さらにその部分の細胞を見せるというスケールダウンの手法があります。「これからどのような発表を行おうとしているのか、イメージを掴んでもらうには、マクロからミクロへ視点を移していく方法がいい。そして細胞の写真を見せるとき、このベジェ曲線によるマスキングが便利なのです。」

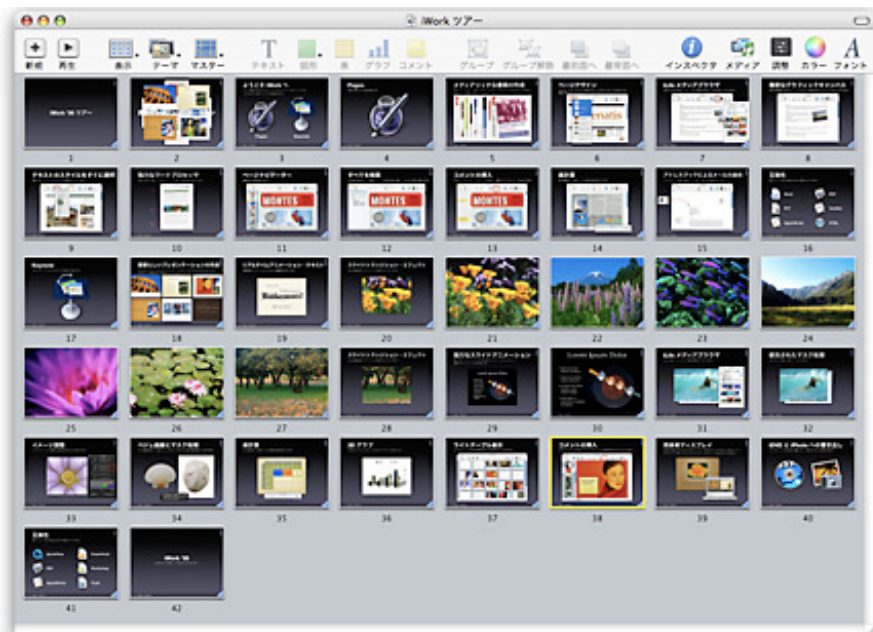
高橋先生が発表に使われるオリジナル写真は顕微鏡写真が多く、細胞が星のように点在しているそうです。「そのなかから見せたい細胞だけを囲んで切り取っていきませんが、細胞の位置がバラバラなので四角や丸で囲みきれないこともけっこうあります。それがKeynote 3になって自由な図形でマスキングできるようになり、見せたい細胞だけを切り抜いて見せることが可能になりました。これは画期的でしょう」

また組織図をイラストに起こす際、他のグラフィックスソフトを駆使していたそうですが、「これも必要なくなりました。」とひとこと。

イメージ調整やiPhotoとの連携、ベジェ曲線以外に、オブジェクトのグループ化後のリサイズ、変形、回転機能などもKeynote 3に備わりました。「結論を言うと、グラフィックに関しては、Keynote 3でほとんど間に合うようになりました。高価なグラフィックスソフトが要らないですし、何より、作業効率とスピードのアップが測られたのは大きいですね。体感的ですが、同じ内容のプレゼンテーション用の資料を作る場合なら、おそらく3分の2ぐらいの時間で仕上げるができるのではないのでしょうか。どの先生方もそうでしょうか、発表の資料作りがルーティンワークではなく、限られた時間中で作らなければならないということを考えると、作業時間や効率がアップしたというのは、たいへんうれしいことです。」

グラフ機能、スライド作成機能など、そのほかの新機能

Keynote 3にはグラフィック機能のほか、グラフ機能、新しいトランジション、スライド作成支援、発表機能などにも新機能が加わっています。こちらでは「新しいトランジションと、ライトテーブル表示によるスライド入れ替え作業がとくに使いやすい」と先生。



「とにかくKeynote 3になって増えたトランジションは、面白いものばかり。私自身はとくに“反射”に注目しています。学会のような場では使えるものが限られてしましますが、依頼講演のように少し長い時間枠が設けられているようなケースでは、少し遊び心が入った雰囲気が出せて、見ている人たちを飽きさせない、こういった機能は大いに利用していきたい。もちろん闇雲に使うと全体がごちゃごちゃした感じになってしまい、返ってインパクトがなくなるので、あくまでもほどほどが大切ですが。ライトテーブル表示によるスライドの入れ替えが簡単に行えるようになったのは、これも“本当に欲しい機能のひとつがサポートされたという感じ”がします。」と高橋先生。

グラフ機能は一般的な折れ線グラフや棒グラフに加えて散布図がサポートされ、たいへんきれいな仕上げのグラフが書ける一方で、学会で発表することを考えると、もう少しアカデミックなスタイルが欲しいと先生は指摘します。「エラーバーの表

ソルを持っていくことで、再生コントロールパネルを表示させてムービーの再生をコントロールすることができます。コントロールパネルには、一時停止、再生、巻き戻しなどのコントロールが表示されます。

示は学会発表のグラフではもはや必須だといってもいいでしょう。数字を入れるとエラーバーが出るような仕組みがあるといいですね。」と話しています。

「“リハーサル機能”は、地方の学会などに行くときなど、移動中や前日の練習が可能です。まだ使ってはいませんが、話し出すタイミングを教えてくれる“スライド進行インジケータ”や、スライドに張り込んだ動画のコントロールや繰り返し再生ができる“ムービースクラブ”機能により、さらにスマートな発表が可能になると思います。プレゼンテーション資料にスティッキーズのようにメッセージを書き込めるコメント機能も、何人かで共同でスライドを作成する際などに有効でしょう。」

[次ページ](#)：高橋先生はMacBook Pro+Keynote 3をこう評価する 

[ホーム](#) > [Medical](#) > Keynote 3でより簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力

Keynote 3でより簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力

ハイパフォーマンスのMac Book Proとの組み合わせで作業効率もアップ

プレゼンファイルの共有と有効活用

学会で発表した内容は、ときに参考資料として渡すことがあります。Keynote 2ではQuickTime書き出しによりKeynoteならではのトランジションやエフェクトも併せて再現できましたが、Keynote 3ではさらにiDVDに直接書き出す機能もサポート。「過去の発表内容を見てもらうとき、これまではQuickTimeで書き出し、渡していました。今後はPCがない環境でも観てもらえるDVDも一つの選択肢となり得ると思います」と高橋先生。

また、マイクロソフト社のPowerPointとの互換性について伺うと、「文字についてはMicrosoft Office 2004 for Macに付属するPフォントを活用することで、例えばWindowsで作成したPowerPointファイルでもレイアウトの互換性を高めることはできます。ただし、トランジションやグラデーションなどについては描画方法がKeynoteとPowerPointでは異なるので100%の再現は難しく、グラフィカルな要素の仕上がりを含めた場合は完全互換とは言うのは難しいです。やはり、そういった要素はKeynoteで作成した方がきれいに仕上がります。ただし、Keynoteは直接PowerPointファイルの読み書きができるので緊急対策用としては使えますね。」



さらに進んだ使い方としてMacBook Proにも標準でバンドルされているOmniOutlinerとKeynoteの連動について「OmniOutlinerは作成したテキストのアウトラインをKeynoteフォーマットで書き出しできるので、プレゼンテーションの内容や目的によっては、きわめて短時間でKeynoteによるスライドを作成することができます。実際この方法で50枚のスライドを3日間で作ったことがあります。この方法はどちらかというと、学会プレゼンテーションよりも、例えば講義の資料などに向くかもしれません。授業を持っておられる先生は、このワークフローを有効活用すると便利だと思います。」（高橋先生）

高橋先生はMacBook Pro+Keynote 3をこう評価する

Keynote 3と同時に発表されたインテルプロセッサ搭載のノートブック、MacBook Pro。実際に使ってみた感覚について高橋先生は、「基本的にMacとしての使い勝手はまったく変わっていませんね。でも、こんなに速いと思いませんでした。」と述べています。デスクトップ以上のパワー、スピードを持ったノートブック——このように評価されているようです。具体的にどのような点に高いパフォーマンスを感じられたのか伺うと、以下のような項目を挙げてくださいました。

1. Finderの操作がきびきびしている
2. QuickTimeの書き出し（エンコード）が速い
3. アプリケーションの起動が速い
4. Keynoteの（グラフィック負荷の重い）トランジションでも動きが大変スムーズ
5. iMovie HDでのHD素材の取り込みや編集が快適。Power Mac G5より速いほど

ユーザーインタビュー

杏林大学医学部共同研究施設フローサイトメトリー部門 高橋 良先生

1. [Keynote 3でより簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力](#)
2. 高橋先生はMacBook Pro+Keynote 3をこう評価する

ソリューション

プレゼンテーションの実施とデータの活用

1. [柔軟なグラフィックス機能の追加でさらに豊かになった表現力](#)
2. [プレゼンテーションの実施とデータの活用](#)

MacBook Pro



MacBook Proの詳しい情報や、PowerBook G4とのベンチマークテストの比較などは、[こちら](#)をご覧ください。

い。

[今すぐ購入](#)

[Apple Storeでオンライン注文する。](#)

¥249,800〜

Rosetta

RosettaはMac OS Xに組み込まれた機能で、Intelプロセッサ搭載MacにおいてバックグラウンドでPowerPCベースのアプリケーションをIntelベースのMac用に逐次変換して実行します。従来のMac OS X上のClassic環境のようなエミュレーション環境とは異なりユーザには見えない形で実行されます。

Apple Remote



MacBook Proに標準で付属する赤外線リモコン。Apple RemoteのMENUボタンを押すと画面にFront Rowが表示され、音楽、ビデオ、写真、DVDの再生をコントロールできます。さらに、iPhotoのスライドショー、Keynoteのプレゼンテーション、QuickTime Playerの動画再生などのコントロールもApple Remoteで行うことができます。

OmniOutliner

本書は、Appleの公式サイトで公開されている資料に基づいて作成されています。

6.フルHDの再生でもコマ落ちがまったくない。再生中に他の作業を行ってもコマ落ちしない

MacBook Proは、Finderの操作がきびきびしていて、アプリケーションの起動も速い。

「また、（Rosettaでの）従来のPowerPC版アプリケーションの動作も、最初の起動は時間がかかりますが、ノートブックを利用するときは、使っていないときにはシステムを終了させるのではなく、たいていスリープさせて運用しますので、2回目以降のパフォーマンスは従来のPowerBook G4と同程度になり、気になりません。どんな仕事にも当てはまるでしょうが、近年、単位時間あたりに処理しなければならない仕事や情報量が確実に増えています。MacBook Proはこうしたバックグラウンドにマッチしたマシンだと思います」

さらに従来のPowerBook G4とのハードウェア的な観点からの比較では、高橋先生は次の項目を挙げています。

- 1.高解像度の液晶画面が見やすい。高解像度のためHD画像もゆとりをもって扱える
- 2.厚みがなくなったことで、デスクとの段差が気にならなくなった。キーボードが打ちやすく、疲れにくい。重さ自体は変わらないと言われているが、持った感じは軽い印象
- 3.トラックパッドが大きくなり、画面に相対するので使いやすい
- 4.赤外線リモコンのApple Remoteが標準でサポートされたことにより、Keynote 3のリモコンとして利用が可能になった

「とくに使っていても疲れにくい点がいい。Apple Remoteもうれしい機能です。例えばプレゼンテーションを行っている最中に、違うキーを押して違う画面が出てしまうのはまずいわけです。Apple Remoteはボタンが少なくシンプルなので、発表の場での誤作動を防ぐ効果もあるのではないのでしょうか。」

MacBook ProとKeynoteとの組み合わせでは、「簡単にキレイなグラフィックがストレスなく作れるようになりました。iPhotoとの連携もすごくスムーズ。ドラッグ&ドロップで写真素材が組み込めるので、とても作業が楽になりました。作業効率のスピードアップにもつながりますから、両者の組み合わせはなかなか悪くないと思います。」

そのほかにも、KeynoteからFlashへの書き出しスピードは、わずかですがPower Mac G5 より上回っていると実感したようです。

もちろん、マシンやソフトだけが優れていても、そこに命を吹き込むことができないければ意味がありません。どうしたら魅せるプレゼンテーションが実現するか。自分でイメージを作り上げ、具体化させていく必要があります。「我々はクリエイターではないので、ゼロからドラマティックなプレゼンテーション作るとはとうてい不可能（笑）。だから広告やWebなどのテクニックを参考にすることもあります。ドラマの画面展開を参考にすることもあります。そういったところから得たイメージを手軽に形にすることができるのが、Keynote 3。ドラマティックなプレゼンテーションを簡単に作れるソフトとしてすごく面白いと思います。」

今が買い替えるチャンス

インテルプロセッサを搭載した最新のMac環境であるMacBook Pro。高橋先生のお勧めポイントは、「MacBook ProとKeynote 3があれば、論文・発表用の図・写真の作成が手早く簡単にできること。」前述したように高価なソフトは必要なく、標準バンドルのiLife '06や安価なiWork '06などのApple純正ソフトだけで十分という点も高く評価されています。「使ってみると分かりますが、インテルプロセッサ・ネイティブのUniversalアプリケーションでは、Power Mac G5のようなデスクトップマシンよりも高速な処理ができました。MacBook Proの優れたパフォーマンスを実感した一瞬でしたね。」

Keynoteによるプレゼンテーションだけではなく、高橋先生はOSレベルでPDF作成をサポートしていること点にも注目しています。「論文の投稿をPDF等の電子メディアで行うのが主流になりつつあります。ですので、MacBook Proなら簡単に投稿用の論文を作成することができます。」このほか、セキュリティが高い

文庫、論文などの全体の構成を階層化し、自由自在に入れ替え、組み上げるのに向くアウトラインプロセッサと呼ばれるカテゴリのソフトウェア。開発元は米Omni Group。同社のドローイングソフトウェアであるOmniGraffleとの連携でテキストから簡単にグラフィカルなチャートを作成することも可能。バージョン3.5でUniversalアプリケーションとなりIntel Macにもネイティブで対応し、MacBook Proにもバンドルされている。バージョン3.5ではKeynote 3への書き出しをサポートしていないが、次期バージョン3.6以降で対応予定。

MacOS Xを採用していることで、個人情報の漏洩などの問題を回避できるMacBook Pro。魅力的なマシンに仕上がっていると先生。「今が買い替えるチャンスかもしれませんね。周囲に購入を考えている人がいれば、迷わずMacBook Proを薦めます。」

[前ページ](#)：より簡単に、さらに向上したプレゼンテーションの表現力🔍